

令和 8 年度
土地改良事業計画書
(農業用ため池整備事業)

都道府県名	福	岡	県			
地区名	野	中	上	地	区	
所在名	遠	賀	郡	遠	賀	町
事業主体	福	岡	県			

目 次

第1章 目 的	1
第2章 地域及び地積	1
第1節 地 域	1
第2節 地 積	1
第3章 現 況	2
第1節 気象及び海象	2
1. 一般気象	2
2. 特殊気象	2
3. 海 象	3
第2節 土 地 状 況	3
1. 地形、土壌及び浸食の程度	3
2. 土地分類	5
3. 土地利用の状況	6
4. 土地所有の状況	6
第3節 水 利 状 況	7
1. 用水状況	7
2. 排水状況	10
3. 河川状況	12
第4節 道 路 現 況	13
1. 道路概況	13
2. 主要道路一覧表	13
第5節 地域農業の概況	13
1. 産業別就業人口	13
2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況 並びに専兼業別農家数	14

3. 動力農機具及び主要家畜頭数	14
4. 主要作物作付状況	15
5. 農業の動向	16
第6節 地域環境の概況	17
第4章 一 般 計 画	18
第1節 事業計画の要旨	18
1. 要 旨	18
2. 事業別面積	19
第2節 営農計画及び土地利用計画	20
1. 営農計画の概要	20
2. 土地利用区分	20
3. 作付方式	21
4. 生産計画	21
5. 労働改善計画	22
6. 級地別土地利用区分	22
7. 土地配分計画	23
第3節 用 水 計 画	23
1. 計画基準年	23
2. 計画かんがい方式	23
3. 計画用水系統	23
4. 計画用水量	24
5. 水源計画	25

第4節 排水計画	28
1. 計画基準雨量	28
2. 計画排水方式	28
3. 計画排水系統	28
4. 計画排水量	28
5. 排水対策	29
6. 湛水検討	30
第5節 道路計画	31
1. 道路及び索道	31
2. 路線配置図	31
第6節 農用地造成計画	32
1. 農用地造成計画	32
2. 土壌改良	32
第7節 洪水調節計画	33
1. 計画基準雨量	33
2. 計画洪水量及び調節量	33
3. 貯水池	33
4. 洪水調節検討	34
5. 管理計画	34
第8節 干拓計画	35
第9節 農用地整備計画	35
1. 区画整理	35
2. 暗渠排水	36
3. 客土	37
4. 農地保全	38
第10節 老朽ため池改修計画	39
1. 洪水吐改修計画	39
2. 堤体補強計画	39
3. 取水施設改修計画	39

第5章 主要工事計画	40
第1節 用水施設	40
1. 貯水池	40
2. 頭首工	40
3. 揚水機	41
4. 用水路	41
5. その他かんがい施設	41
第2節 排水施設	42
1. 排水水門	42
2. 排水機	42
3. 排水路	43
4. その他排水施設	43
第3節 道路及び索道	43
1. 道路	43
2. 索道	44
第4節 農用地造成	45
1. 農用地造成	45
2. 土壌改良	47
第5節 洪水調節施設	48
1. 貯水池	48
2. 頭首工及び導水路	48
第6節 干拓施設	49
1. 堤防	49
2. 潮止め	49
3. 付属施設	49
4. 埋立	49

第7節 農用地整備施設	5 0	第4節 土地の評価及び清算の方法	6 0
1. 区画整理	5 0	1. 評価の方法	6 0
2. 暗渠排水	5 1	2. 清算の方法	6 0
3. 客土	5 2	第5節 換地計画樹立の年度計画	6 0
4. 除礫	5 2	第6節 換地処分の特則	6 0
5. 農地保全	5 3		
第8節 老朽ため池改修施設	5 4	第10章 事業費の総額及び内訳	6 1
1. 貯水池	5 4	第11章 効用	6 2
2. 堤体補強施設	5 4	第12章 関連する事業	6 4
第6章 付帯工事計画	5 5	第13章 関係図面	6 4
第7章 工事の着手及び完了の予定時期	5 5	1. 位置図	6 5
第8章 環境との調和への配慮	5 6	2. 計画概要図	6 6
第9章 換地計画の概要	5 7		
第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方	5 7		
第2節 換地区の設定	5 7		
1. 換地区の名称, 所在, 面積	5 7		
2. 換地区を設定する理由	5 7		
第3節 換地計画樹立の基本方針	5 7		
1. 従前の土地の面積の基準	5 7		
2. 用途別予定地積	5 8		
3. 農用地集団化の方針	5 9		
4. 非農用地の換地方法	5 9		

第 1 章 目 的

(1) 必 要 性

野中上池は築造年は不明であるが、築造から100年以上が経過しており、古くからかんがい用ため池として利用されてきた防災重点農業用ため池である。

現況堤体は余裕高不足であり、下流法面において耐震性を有していない。また、堤体下流法尻部から漏水が確認され、その漏水量は基準値を超えている。

また、現況取水施設は緊急放流機能を有しておらず、底樋の断面も維持管理上必要とされる断面を有しておらず、現況洪水吐は一部区間において設計洪水量を流下させる能力が不足している。

以上のことから、地震時や大雨時には堤体決壊の恐れがあるため、ため池の改修が必要である。

(2) 緊 急 性

堤体が決壊する事態になれば、ため池下流の農地、農業用施設は勿論、住宅及び鉄道、町道等の公共施設にも甚大な被害を及ぼすことになるため、早急に改修する必要がある。

第 2 章 地域及び地積

第 1 節 地 域

(第 1 表)

事 業 名	地 域
農業用ため池整備事業	野中上池受益地：福岡県遠賀郡遠賀町大字別府地内

第 2 節 地 積

(第 2 表)

事 業 名	現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	備 考
	市町村名							
農業用ため池 整備事業	遠 賀 町	3.9	—	—	—	—	3.9	
	計	3.9	—	—	—	—	3.9	
	計							
合 計		3.9	—	—	—	—	3.9	

第 3 章 現 況

第 1 節 気象及び海象

1. 一般気象

(第3表-1)

観測所名 観測期間	下関地方気象台 1946年～2023年	かんがい期 4月～10月	非かんがい期 11月～3月	計または平均	備 考
平 均	気 温 (°C)	21.4	9.0	16.3	気象庁ホームページより
降 雨 量	平 均 (mm)	1,299.5	414.7	1,714.2	〃
	基 準 年 (mm)	—	—	—	
降水日数	平 均 (日)	66	46	112	≥1.0mm/日
	基 準 年 (日)	—	—	—	
根 雪 期 間	—				
無 霧 期 間	—				
最 多 風 向	東南東	最 大 風 速		30.7 m/s (東南東)	発生時期 月～月 発生年月日 昭和45年8月15日

2. 特殊気象

(第3表-2)

観測所名 下関地方気象台 観測期間 1946年～2023年	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備 考
	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
最大日雨量 (mm)	265.7	1953/6/28	1/500	218.6	1954/9/25	1/70	205.1	1949/8/17	1/40	186.5	2021/8/14	1/36	184.0	2018/7/6	1/25	
最大時間雨量 (mm)	77.4	1953/6/28	1/90	71.0	2004/9/16	1/50	71.0	2012/7/14	1/50	65.5	2015/8/25	1/20	64.0	2019/7/18	1/15	
最大4時間雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
最大連続雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
最大連続干天日数 (日)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

3. 海 象

(第3表-3)

観測所名		既往最高 潮位 (m)	さく望平均 満潮位 (m)	上下弦平均 満潮位 (m)	平均潮位 (m)	上下弦平均 干潮位 (m)	さく望平均 干潮位 (m)	既往最低 潮位 (m)	備 考
観測期間	年～ 年								
実 測 値		()							

第2節 土地状況

1. 希

(第4表-1-1)

事業名	地 目	田 (ha)						畑・その他 (ha)								受益地標高(m)		備 考	
		傾 斜 区 分	1/1000 以下	1/1000 ～1/100	1/100 ～1/20	1/20 ～1/11.5	1/11.5 以上	計	3℃ 以下	3℃ ～	0℃～15℃			15℃ ～20℃	20℃ 以上	計	最 高		最 低
											0℃ ～ 10℃	10℃ ～ 15℃	0℃ ～ 15℃						
農業用 ため池 整備事 業	面 積 (ha)	—	3.9	—	—	—	3.9	—	—	—	—	—	—	—	—	1.9	1.3		
	百分率 (%)	—	100	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—				
	面 積 (ha)																		
	百分率 (%)																		
合 計	面 積 (ha)	—	3.9	—	—	—	3.9	—	—	—	—	—	—	—	—	1.9	1.3		
	百分率 (%)	—	100	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—				

(第4表-1-2)

項目 土壤統(区)名	土 壤 統 (区) 区 分 一 覧 表									面 積 (ha)			備 考	
	土 壤 断 面								堆積様式	母 材	事 業 名			
	色	腐 食	礫 層	酸 化 沈 殿 物	土 性			泥炭層 黒泥層 及び グライ層			農 業 用 た め 池 整 備 事 業	計		
					表土	下 表 土								
一層	二層	三層												
泥炭土壤粘土 型	10YR 5/6	含む	なし	—	SCL	LiC	-	あり	—	—	3.9		3.9	
計											3.9		3.9	

希

(第4表-1-3)

事業名	区分	土 壤 の 流 亡 率				年 平 均 流 亡 速 度				カリー浸食の程度		備 考
		0	0~25%	25~50%	50%以上	0	3mm未満	3~5mm	5mm以上	中程度のもの	大なるもの	
農地保全	面積(ha)											
	比率(%)											

2. 土地分類

(第4表-2-1)

市町村名	農用地造成											計 (ha)	備考
	一級地	二級地				三級地				四級地			
		*	0° ~3°	3° ~12°	12° ~15°	*	15° ~20°	20° ~25°	25° ~30°	*	30°以上		
	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
計													

*は傾斜以外の要因によるもの

希

(第4表-2-2)

市町村名	一級地 (ha)	二級地 (ha)	三級地 (ha)	四級地 (ha)	計 (ha)	備考
計						

3. 土地利用の状況

(第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕 地							山 林		採 草 放牧地 (ha)	原 野 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水 田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	桑 園 (ha)	茶 園 (ha)	その 他の 樹園地 (ha)	用材林 (ha)	薪炭林 (ha)					
農業 用ため池 整備事業	遠賀町	3.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.9	
	計	3.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.9	
	計														
合 計		3.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.9	

希

4. 土地所有の状況

(第4表-4)

事業名	所有別 区 分	個 人 有	部 落 有	市 町 村 有	国 有	計	備 考
		面 積 (ha)	3.9	—	—	—	
農業 用ため池 整備事業	関係戸数 (戸)	6	—	—	—	6	
	筆 数 (筆)	38	—	—	—	38	
	権 利 関 係	—	—	—	—	—	
	備 考 (受益者数)	6	—	—	—	6	

第 3 節 水利状況

1. 用水状況

(1) 用水系統 野中上池 → 受益地 A=3.9 ha
(別紙現況用系統図参照)

(2) 用水施設 ため池

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

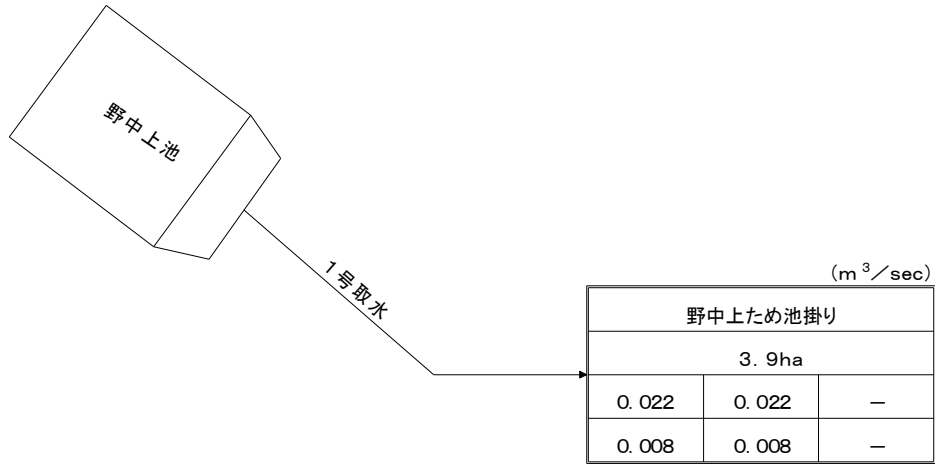
事業名	項目 施設名	かんがい面積								水利権		慣行水利権		延取水量		備考
		100ha以上		100ha~50ha		50ha未満		計		箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha							
農業 用ため 池整備	希少な植 物・動物					1	3.9	1	3.9			1	0.022			
	井 堰															
	自然取入口															
	揚 水 機															
	そ の 他															
合 計						1	3.9	1	3.9			1	0.022			

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目 施設名	施設名 又は箇所数 (箇所)	受益面積 (ha)	構 造	規 模 (貯水量)	新設年 又は更新年	改 修 を 必 要 と す る 理 由	備 考
農業 用ため 池整備	貯 水 池	野中上池	3.9	アースダム (均一型)	73 千m ³	不 明	堤体下流法面は耐震性を有しておらず、洪水吐は 通水断面不足であることから、地震時や大雨時に 堤体決壊のおそれがあるため。	
	井 堰							
	自然取入口							
	揚 水 機							
	そ の 他							
合 計			3.9					

現況用水系統図



凡 例									
記 号	名 称								
————	既 設 水 路								
	頭 首 工								
	貯 水 池								
<table border="1"> <tr><td>(イ)</td></tr> <tr><td>(ロ)</td></tr> <tr><td>(ハ)</td><td>(ニ)</td><td>(ト)</td></tr> <tr><td>(ホ)</td><td>(ヘ)</td><td>(ト)</td></tr> </table>	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ト)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	地 区 外
(イ)									
(ロ)									
(ハ)	(ニ)	(ト)							
(ホ)	(ヘ)	(ト)							
<table border="1"> <tr><td>(イ)</td></tr> <tr><td>(ロ)</td></tr> <tr><td>(ハ)</td><td>(ニ)</td><td>(ト)</td></tr> <tr><td>(ホ)</td><td>(ヘ)</td><td>(ト)</td></tr> </table>	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ト)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	地 区 内
(イ)									
(ロ)									
(ハ)	(ニ)	(ト)							
(ホ)	(ヘ)	(ト)							
(イ)	路 線 名								
(ロ)	灌 溉 面 積								
(ハ)	代 掻 期 粗 用 水 量								
(ニ)	代 掻 期 利 用 可 能 量								
(ホ)	普 通 期 粗 用 水 量								
(ヘ)	普 通 期 利 用 可 能 量								
(ト)	不 足 水 量								

(3) 用水に関する被害状況

(ア) 用水不足による被害状況

(第5表-3-1)

事業名	項目 系統名	かんがい面積 (ha)	現況 必要水量 (千m ³)	不足水量				平均減産量		平均 維持管理費 (千円)	備考
				かんがい期最大不足水量		かんがい期総不足水量		作物名	減産量 (t)		
	平均 (m ³ /s)			基準年 (m ³ /s)	平均 (千m ³)	基準年 (千m ³)					
	計										
	計										
	合計										

(イ) その他の被害状況

(第5表-3-2)

事業名	時期別	かんがい面積 (ha)	水温(°C)		水質	被害量 (t)	備考
			最高	最低			

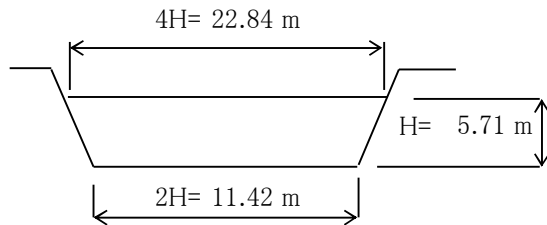
(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

(第5表-3-3)

事業名	想定被害面積 (ha)				想定被害額 (千円)						人命 (人)	備考
	田	畑	その他	計	作物	農地	農業用 施設	公共 施設	家屋 その他	計		
農業用ため池整備 事業	28.6	-	2.2	30.8	20,237	242,671	167,835	45,689	418,413	894,845	52	
計												
合計	28.6	-	2.2	30.8	20,237	242,671	167,835	45,689	418,413	894,845	52	

(5) 原因究明

希 ため池の決壊は、老朽化に伴う堤体の脆弱化と漏水、洪水吐の通水断面不足等が原因になると考えられる。本ため池が決壊すれば、池内の水が堤体等の土砂を巻き込んで下流に氾濫し、下流農地、農業用施設、人家などに多大な被害を与えることが予想されることから、被害を未然に防止するために改修工事が望まれる。



流出洪水量

$$Q1 = 4.5 \times H^{5/2}$$

$$= 4.5 \times 5.71^{5/2}$$

$$= 350.59 \text{ m}^3/\text{s}$$

$$Q2 = \text{設計洪水量}$$

$$= 3.93 \text{ m}^3/\text{s}$$

$$Q = Q1 + Q2$$

$$= 350.59 + 3.93$$

$$= 354.5 \text{ m}^3/\text{s}$$

総土石流出量

$$V1 = \text{決壊堤体積}$$

$$= 2,797 \text{ m}^3$$

$$V2 = \text{耕土流出量}$$

$$= 38,000 \times 0.3$$

$$= 11,400 \text{ m}^3$$

$$V = V1 + V2$$

$$= 2,797 + 11,400$$

$$= 14,197 \text{ m}^3$$

耕土流出面積 38,000 m²

平均流出深 0.3 m

2. 排水状況

(1) 排水系統

該当なし

(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項目		排水面積						計		排水慣行	現況排水能力 (m ³ /s)	備考
			ha以上		～ ha		ha以下						
	施設名	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha				
	自然	排水路											
		水門											
	希 機械	排水機											
		水門及び排水機											
		排水路及び排水機											
	計												
合計													

(イ) 改修を要する施設の一覧表

(第5表-5)

事業名	項目		施設名 又は箇所数	構造	規模	新設年 又は更新年	改修を必要とする理由	備考
	施設名							
	自然	排水路						
		水門						
	機械	排水機						
		水門及び排水機						
		排水路及び排水機						
		計						
	合計							

希

(3) 排水に関する被害状況

(第5表-6)

事業名	項目 系統名	排水面積 (ha)	降水量 (mm)	た ん 水 状 況				乾 湿 状 況 (ha)						平均減産量 (t)		平均 維持管理費 (千円)	備考
				湛水深 (cm)	湛水時間 (hr)	湛水面積 (ha)	湛水量 (千m ³)	田		畑		その他		作物名	減産量		
								乾	湿	乾	湿	乾	湿				
			平均														
			基準年														
	計		平均														
			基準年														
	合計		平均														
			基準年														

3. 河川状況

(1) 河川の現況

(第5表-7)

項目 河川名	流路状況	勾配	断面	安全排水量 (m^3/s)	既往最大排水量 (m^3/s)	備考

希

(2) 洪水に関する被害状況

(第5表-8)

項目 区分	農用地 (千円)	農用施設 (千円)	作物 (千円)	公共施設 (千円)	備考
過去の最大被害額					
平均被害額					

第 4 節 道路現況

1. 道路概況

該 当 な し

2. 主要道路一覧表

(第6表)

No,	路 線 名	管理区分別	延 長 (m)	幅 員 (m)		構 造	改修の適否	備 考
				全 幅	有 効			

第 5 希

1. 産業別就業人口 (令和2年国勢調査)

(第7表-1)

市町村名	項 目	総	農	林	漁	鉱	建	製	業熱電	運輸	卸売	金融	不動	サー	公	そ	備
		数 (人)	業 (人)	業 (人)	業 (人)	業 (人)	設 (人)	造 (人)	供給水 (人)	通信 (人)	小売 (人)	保 (人)	産 (人)	ビス (人)	務 (人)	の (人)	考
遠賀町		4,520	144	0	1	3	669	1,030	35	414	559	39	70	1,221	242	93	
計		4,520	144	0	1	3	669	1,030	35	414	559	39	70	1,221	242	93	
(比率)		100.0%	3.19%	0.00%	0.02%	0.07%	14.80%	22.79%	0.77%	9.16%	12.37%	0.86%	1.55%	27.01%	5.35%	2.06%	

※ 市町村別産業大分類別15歳以上就業者

2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに専業別農家数

(2020年農林業センサス)

(第7表-2)

区分 市町村名	農家総戸数 (戸)	経営耕地広狭別農家戸数 (戸)											1戸当たり平均農用地面積 (ha)						耕地の分散状況		主副業別農家数 (戸)			備考
		を例外規定の適用 を受けるもの	0.3 ～ 0.5	0.5 ～ 1.0	1.0 ～ 1.5	1.5 ～ 2.0	2.0 ～ 3.0	3.0 ～ 5.0	5.0 ～ 10.0	10.0 ～ 20.0	20.0 ha 以上	自給的農家	田	畑	樹園地	小計	草地	計	一戸当たり 団地数	団地 当たり 積り (ha)	主業	準主業	副業	
遠賀町	160	1	8	35	23	17	25	14	24	10	3	111	3.75	0.33	0.00	3.86	0.00	3.86	-	-	31	20	104	
計	160	1	8	35	23	17	25	14	24	10	3	111	3.75	0.33	0.00	3.86	0.00	3.86			31	20	104	
比率(%)	100.0	0.6	5.0	21.9	14.4	10.6	15.6	8.8	15.0	6.2	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	12.9	67.1	

希

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(2020年農林業センサス)

(第7表-3)

項目 市町村名	動力農機具						主要家畜						備考
	動力田植機		トラクター		コンバイン		乳用牛		肉用牛		採卵鶏		
	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (羽)	戸数 (戸)	
遠賀町							-	-	-	-	x	2	
計							-	-	-	-	x	2	
100戸当たり 数量(台,頭)							-	-	-	-	-	-	
利用戸数 割合(%)							-	-	-	-	-	-	

※農業機械の所有台数について、2020年センサスより調査項目から削除された。

4. 主要作物作付状況

(第7表-4)

市町村名			遠賀町				計		平均		作付率 (%)	備考
総耕地面積 (ha)			672				672					
総本地面積 (ha)			651				651				作付率 (%)	備考
区分			作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)		
作物名			作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付率 (%)	備考
田	表作	水稻	335	452					335	452	57.9%	(令和6年産作物統計 調査)
		大豆	55	20					55	20	9.5%	
	裏作	小麦	82	254					82	254	14.2%	
		二条大麦	139	312					139	312	24.0%	
	希少な植物・動物		611						611		102.9%	
畑												
	小計		0						0		0.0%	
樹園地												
	小計											
その他												
計			611						611		93.9%	
市町村別延べ作付率 (%)			93.9%						93.9%			

5. 農業の動向

(第7表-5)

項目 区分	農 家		土 地		主 要 作 物			大 家 畜			動 力 農 機 具			その他	地 域 指定等	備 考	
		B	A		B	A	作 物 名	B	A	家 畜 名	B	A	農 機 具 名				B
変化の状況 (C年を100とする指数)	総農家数	85	67	総面積	100	97	水 稻	-	100	乳用牛	0	0	動力田植機	82	-	A：令和2年 (2020年) B：平成27年 (2015年) C：平成22年 (2010年)	
	主業農家数	96	65	田	100	98	麦 類	172	147	肉用牛	0	0	トラクター	85	-		
	準主業農家数	47	32	畑	102	94	豆 類	129	109	採卵鶏	100	200	コンバイン	77	-		
	副業的農家数	99	85	樹園地	100	0											
農業従事者数	74	60	草 地	0	0												
変化の理由 希	少子高齢化、生産組織等への農地集積により、農家数、農業従事者とも減少傾向にある。			農地は減少傾向にあり、宅地等への転用が考えられる。			農地の汎用化と大型作業機械を有する生産組織等への集積により麦類、豆類が増加している。			飼育頭数は不明であるが、採卵鶏の経営体が1から2へ増加している。			2020年センサスより、農業機械の保有台数に関する調査項目が削減された。				

第6節 地域環境の概況

1. 植物、動物等生態系の概要

本町の大部分は平坦地で占められており、遠賀川の下流に位置する関係から潮の干満の影響を受けやすい特徴がある。

本町西側丘陵部以外にはまとまった形での自然的な植生はほとんど残されてない。特に保全が求められるものとしては、蟹喰池に環境省の絶滅危惧Ⅱ類に分類されているオニバスがある。

動物は、以下の生息が確認されている。

哺乳類	高山、馬頭岳にイノシシ、タヌキ、イタチ、ウサギ	
鳥類	キジ、コジュケイ、ヤマドリ、バン、タシキ、ヤマキジ	ため池にカモ、オシドリ
爬虫類	山間部にマムシ	河川にクサガメ、イシガメ
魚類	フナ、コイ、ウナギ、ブラックバス	西川ではボラ、ハゼ、スズキ、高塚地区の水田にタナゴ類の情報あり
昆虫類	高塚地区にホタル	馬頭岳等でカブトムシ、クワガタムシ

(参考文献：遠賀町田園環境整備マスタープラン 平成14年3月)

希少な植物・動物

植物	ウマスゲ、オニバス、スジヌマハイリ、ノウルシ
貝類	オオクリイロカワザンショウ、ヒナタムシヤドカリカワザンショウ、マメタニシ
魚類	カワアナゴ、サケ、シマヒレヨシノボリ、ニホンウナギ、メダカ (ミナミメダカ)
甲殻類他	ハマガニ、ベンケイガニ
昆虫類	キイトトンボ、ナガミズムシ、ミズカマキリ

(参考文献：遠賀町環境基本計画 平成29年3月 希少な植物・動物)

2. その他地域環境の概要

①自然環境

本町は、福岡県の北部、遠賀川の河口近くの左岸に位置し、東西5km、南北9km、総面積2,214haである。町域の70%が平坦地で、遠賀川により形成された沖積層からなる。南北に連なる台地は第三紀層、中生層で構成されている。

②生活環境

北九州都市圏域の膨張に伴い人口は増加してきたが、住宅地化の進行に伴い家庭雑排水による河川水質の悪化が年々深刻化している。また、住民の意向でも上水道やし尿処理・排水処理といった「水」に関する満足度は低く、公共下水道整備や農業集落排水事業の推進によるきれいな水の確保が求められる。

③生産環境

農家数、耕地面積は年々減少傾向にあり、農業粗生産額も減少傾向にある。生産額の内訳は、米と野菜で全体の約9割を占め、米が減少傾向にあるのに対し、野菜は増加傾向にある。

今後は農家の高齢化や後継者不足などとあいまって、農業を取り巻く状況はさらに厳しくなることが予想される。より生産性の高い農業基盤の整備等を推進することで、土地の流動化・集約化による効率的な土地利用を進めるとともに作物の多様化・低コスト化を実現し、農業経営の体質強化を図ることが求められる。

第 4 章 一 般 計 画

第 1 節 事業計画の要旨

1. 要 旨

項 目	事 業 を 必 要 と す る 理 由	改 修 ・ 補 強 工 法	備 考
堤 体	<ul style="list-style-type: none"> ・堤体下流の法尻からの漏水が見受けられる。 漏水量 $83.2 \text{ } \mu\text{L}/\text{min}/100\text{m} > 60 \mu\text{L}/\text{min}/100\text{m}$ ・地震時において、常時満水時の下流法面が不安定である。 安全率 $F_s = 1.077 < 1.20$ ・堤頂幅が不足している。 現況堤頂幅 $3.00 \text{ m} < \text{必要堤頂幅 } 3.60 \text{ m}$ ・堤体の余裕高が不足している。 現況余裕高 $1.15 \text{ m} < \text{必要余裕高 } 1.32 \text{ m}$ <p>以上より、早急に改修する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・堤体改修工 <ul style="list-style-type: none"> 前刃金土工法 $L= 107.0 \text{ m}$ 中層混合処理工法 一式 腰石積工 $L= 74.0 \text{ m}$ 波受工 $A= 896 \text{ m}^2$ 	
取水施設	<ul style="list-style-type: none"> ・取水施設の機能低下 取水施設が老朽化しており、操作に支障を来している。 ・緊急放流時の能力不足 地震発生直後等の堤体保全のために必要な緊急放流機能を備えていない。 ・底樋の管理断面不足 底樋は400×300のボックスカルバートで管理断面不足である。 <p>以上より、早急に改修する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取水孔 $\phi 150\text{mm} \times 4\text{孔}$ (取水ゲート) ・斜樋管 <ul style="list-style-type: none"> 塩ビ管 $\phi 500 \text{ mm}$ $L= 4.1 \text{ m}$ 塩ビ管 $\phi 250 \text{ mm}$ $L= 5.0 \text{ m}$ ・底樋工 <ul style="list-style-type: none"> ヒューム管 $\phi 800 \text{ mm}$ $L= 27.7 \text{ m}$ 	
洪水吐	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水吐の通水断面不足 排水可能流量 $2.76 \text{ m}^3/\text{s} < \text{設計洪水量 } 3.93 \text{ m}^3/\text{s}$ <p>以上より、早急に改修する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正面越流型 $B= 3.0 \text{ m}$ ・鉄筋コンクリート三面張水路 $L= 20.7 \text{ m}$ 	
その他被災歴・改修歴・溜池依存の状況等特記事項	なし	なし	

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地利用区分	農業用ため池整備事業														計 (ha)	備考
	田 (ha)	輪換耕地 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)		小計 (ha)	田 (ha)	輪換耕地 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)			小計 (ha)		
事業目的 ため池が老朽化し危険であるため緊急に改修する	3.9	—	—	—	—	—	3.9								3.9	
計	3.9	—	—	—	—	—	3.9								3.9	

第 2 節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

該 当 な し

2. 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用区分	田	輪換耕地	普通畑	牧草地	果樹園	桑園		小計	原野	山林	その他	計	備考
	区分	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
池農業 整備 用 事業 ため	現況	3.9							3.9				3.9	
	計画	3.9							3.9				3.9	
	現況													
	計画													
	現況													
	計画													
計	現況	3.9							3.9				3.9	
	計画	3.9							3.9				3.9	

5. 労働改善計画

(第9表-4)

事業名	項目 土地利用区分	作物名	作付面積(ha)	単位面積当たり労働投下量(hr/10a)				備考
				区分	現況	計画	増減	
				人力				
				機械力				
				人力				
				機械力				
	計							
				人力				
				機械力				
				人力				
				機械力				
	計							
合計								

6. 級地別土地利用区分

(第9表-5)

区分・級地名 土地利用区分		農用地造成(ha)					干拓(ha)					合計
		一級地	二級地	三級地	四級地	計	一級地	二級地	三級地	四級地	計	
農地	田											
	輪換耕地											
	畑											
	(普通畑)											
	(牧草地)											
	樹園地											
	果樹園											
	(桑園)											
その他												
計												

7. 土地配分計画

(第9表-6)

項目 区分	配分戸数 (戸)	地目別配分計画 (ha)							備考
		田	輪換耕地	畑			計		
				普通畑	牧草地	樹園地			
増反		()	()	()	()	()	()	()	
入植		()	()	()	()	()	()	()	

第3節 用水計画

1. 計画基準年

2. 計画かんがい方式

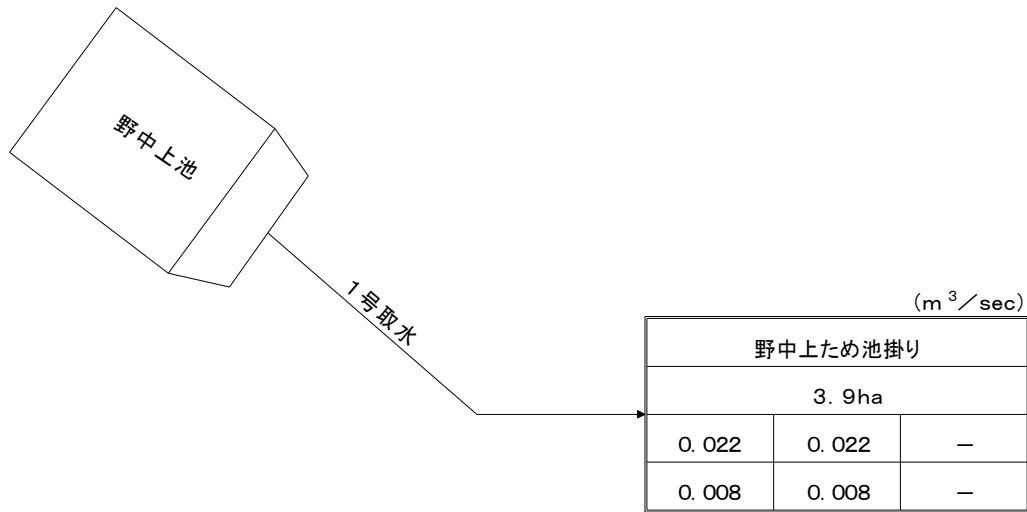
取水孔 (φ150mm×4孔 (取水ゲート)) の開閉による自然流下かんがいを行う。

3. 計画用水系統

野中上池 → 受益地 3.9 ha 現況用水系統から変更なし

(別紙計画用水系統図参照)

計画用水系統図



凡 例								
記 号	名 称							
————	既 設 水 路							
○——○	頭 首 工							
▽	貯 水 池							
<table border="1"> <tr><td>(イ)</td></tr> <tr><td>(ロ)</td></tr> <tr><td>(ハ)</td></tr> <tr><td>(ニ)</td></tr> <tr><td>(ホ)</td></tr> <tr><td>(ヘ)</td></tr> <tr><td>(ト)</td></tr> </table>	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	地 区 外
(イ)								
(ロ)								
(ハ)								
(ニ)								
(ホ)								
(ヘ)								
(ト)								
<table border="1"> <tr><td>(イ)</td></tr> <tr><td>(ロ)</td></tr> <tr><td>(ハ)</td></tr> <tr><td>(ニ)</td></tr> <tr><td>(ホ)</td></tr> <tr><td>(ヘ)</td></tr> <tr><td>(ト)</td></tr> </table>	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	地 区 内
(イ)								
(ロ)								
(ハ)								
(ニ)								
(ホ)								
(ヘ)								
(ト)								
(イ)	路 線 名							
(ロ)	灌 漑 面 積							
(ハ)	代 掻 期 粗 用 水 量							
(ニ)	代 掻 期 利 用 可 能 量							
(ホ)	普 通 期 粗 用 水 量							
(ヘ)	普 通 期 利 用 可 能 量							
(ト)	不 足 水 量							

4. 計画用水量

(1) かんがい用水

(第10表-1-1)

系統名	項目別	面積(ha)	水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 (m ³ /s)	損失率 (%)	粗用水量		備考	
		事業名	普通期	代かき期	面積 (ha)	計一日当たり平均かん水深 (mm/日)	平均間断日数 (日)	面積 (ha)	計一日当たり平均かん水深 (mm/日)	平均間断日数 (日)	面積 (ha)	単位面用平均量 (mm/日)	面積 (ha)			平均 (m ³ /s)	最大 (m ³ /s)		
		農作業ため池	単位面用平均量 (mm/日)	単位面用代かき量 (mm)															
			Q=(0.150/5+0.015×4/5)×3.90×10000/86400×1/0.85=0.022m ³ /s																
野中上池	ため池	3.90	15	150	3.90								0.019	15	0.008	0.022			
		粗用水量																	
		・代かき期最大												代かき用水量 :	150 mm/日				
		Q=(0.150/5+0.015×4/5)×3.90×10000/86400×1/0.85=0.022m ³ /s												代かき日数 :	5 日				
		・普通期												普通期減水深 :	15 mm/日				
		Q=0.015×3.90×10000/86400×1/0.85=0.008m ³ /s												かんがい効果 :	85 %				

(2) 営農飲雑用水

(第10表-1-2)

区分	利用目的	対象面積 (ha)			日当給水量		補給回数 (回)	関係戸数 (戸)	備考
		事業名			単位給水量 (ℓ/日)	最大給水量 (ℓ/日)			
				計					

5. 水源計画

(1) 水利用計画

(第10表-2)

項目 区分	消費水量 a (千/m ³)	有効雨量 b (千/m ³)	純用水量 c=a-b (千/m ³)	粗用水量 d=c/(1-a) (千/m ³)	現況利用可能水量			不足量		水源依存量		水源工種	備考 損失率：α
					水源名	取水地点 利用 可能量	ほ場利用 可能量	純不足 水量	全不足 水量	水源名	水量		
						e (千/m ³)	f (千/m ³)	g=c-f (千/m ³)	h=d-e (千/m ³)		(千/m ³)		
事業名													
計													

(2) 用水対策

(ア) 貯水池

(第10表-3)

項目 貯水池名	流域面積 (km ²)		かんがい面積 (ha)			純貯水量 (千m ³)	利用貯水量 (千m ³)	利用回数 (回)	最大取水量 (m ³ /s)	備考
			事業名		計					
	直接	間接	農業用ため 池整備事業							
野中上池	0.263	—	3.9		3.9	73.0	73.0	—	0.022	

(イ) 井堰及び自然取入口

(第10表-4)

項目 取水施設名	河川名	流域面積 (km ²)	かんがい面積 (ha)		取水量 (m ³ /s)		備 考	
			事 業 名		計	最 大		平 均
計								

(ウ) 揚水機

(第10表-5)

項目 名 称	水源名	かんがい面積 (ha)			所要水量 (m ³ /s)		揚 水 機				備 考	
		事 業 名			計	最 大	平 均	実揚程 (m)	揚水量 (m ³ /s)	台 数 (台)		全揚水量 (m ³ /s)

(エ) 用水路

(第10表-6)

項目 名称	かんがい面積 (ha)		計	最大通水量 (m^3/s)	延長 (km)	構造	備考
	事業名						

(オ) その他の水源施設

該当なし

(3) 水温水質

該当なし

第 4 節 排水計画

1. 計画基準雨量

該 当 な し

2. 計画排水方式

該 当 な し

3. 計画排水系統

該 当 な し

4. 計画排水量

(第 1 1 表 - 1)

項目 排水系統名	受益面積 (ha)			流域面積 (km ²)		基準雨量 (mm)	降雨による直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全排水量 (m ³ /s)			単位排水量 (m ³ /s/km ²)		備 考
	事業名		計	山 地	平 地		山 地	平 地	山 地	平 地	山 地	平 地		山 地	平 地	
												自然排水	機械排水			

5. 排水対策

(1) 排水水門

(第11表-2)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積 (ha)		計	計 画		排 水 本 川		備 考	
		事業名			排水量 (m ³ /s)	地区内 たん水深 (m)	名 称	計画降水量 (m ³ /s)		計画洪水位 (m)
計										

(2) 排水機

(第11表-3)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積 (ha)		計	計 画 排 水 量		排 水 機			備 考	
		事業名			排水量 (m ³ /s)	地区内 たん水深 (m)	実揚程 (m)	排水量 (m ³ /s)	台 数 (台)		全排水量 (m ³ /s)
計											

(3) 排水路

(第11表-4)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積 (ha)			計画排水量 (m ³ /s)	延長 (m)	構造	排水本川			備考
		事業名		計				名称	計画洪水量 (m ³ /s)	計画洪水位 (m)	

(4) その他

該当なし

6. 湛水検討

該当なし

第 5 節 道路計画

1. 道路及び索道

(1) 道 路

(第 1 2 表 - 1)

項 目 路 線 名	幅(有効) × 延長 (m) (km)	構 造	既設道路との関係	備 考

(2) 索 道

(第 1 2 表 - 2)

項 目 路 線 名	能 力 (t/hr)	延 長 (m)	接 続 道 路 名	備 考

2. 路線配置図

該 当 な し

第 6 節 農用地造成計画

1. 農用地造成計画

(1) 農用地造成計画

(第 13 表-1)

項目 土地利用区分	主要作物	自然傾斜	耕地の形態	標準区画の形状	備考

(2) 末端道水路配置図

該当なし

2. 土壌改良

(第 13 表-2)

項目 区分	面積 (ha)	土 壤 統(区)名	pH		置換酸度 (Y ₁)	りん酸 吸収係数 (mg/100g)	ha 当たり 所要量			備考
			H ₂ O	K C I			石 炭 (t)	りん酸質資材 (t)	有機質資材 (t)	

第 7 節 洪水調節計画

1. 計画基準雨量

該 当 な し

2. 計画洪水量及び調節量

(第 1 4 表 - 1)

地 点	流域面積 (km ²)	洪 水 到達時間 (ha)	計 画 洪 水 量 (m ³ /s)	安 全 洪 水 量 (m ³ /s)	必 要 調 節 量 (m ³ /s)	ピーク時 調 節 量 (m ³ /s)	ピーク時 調 節 後 流 量 (m ³ /s)	調 節 後 最 大 流 量 (m ³ /s)	調 節 前 後 の 最 大 流 量 の 差 (m ³ /s)	最 大 調 節 量 (m ³ /s)	備 考

3. 貯水池

(第 1 4 表 - 2)

項 目 貯水池名	流域面積 (km ²)		計 画 洪 水 量 (m ³ /s)	貯 水 量 (千 m ³)			計 画 調 節 流 量 (m ³ /s)	可 能 調 節 流 量 (m ³ /s)	備 考
	直 接	間 接		有 効	洪水調節容 量	他 目 的			

4. 洪水調節検討

(1) 河川改修計画との関係

該 当 な し

(2) 洪水調節が下流に及ぼす影響

該 当 な し

(3) 計画基準雨量以外の降雨についての検討

該 当 な し

5. 管理計画

(1) 管理機構

該 当 な し

(2) ダム管理操作上の各種基準

該 当 な し

(3) 洪水調節要領

該 当 な し

第 8 節 干拓計画

(第 15 表)

項目 名称	延長 (m)	計画高潮(水)位 (T. P. m)	風向き及び 対岸距離 (km)	風速 (m/s)	気圧 (mb)	備考

第 9 節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状

(第 16 表 - 1)

長辺 × 短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
計					

(2) 表土扱い

(第16表-2)

面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 (m^3)	備考

(3) 末端道水路配置図

該当なし

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

(第16表-3-1)

項目 区分	面積 (ha)		土壌統(区分)	基準雨量 (mm/day)	単位排水量 ($l/s/ha$)	計画後の 地下水位 (m)	集水渠出口 以下の 排水方法	備考
	事業名	計						
計								

(2) 心土破碎

(第16表-3-2)

項目 区分	面積 (ha)		計	土壌統(区)名	土壌硬度	備考
	事業名					
計						

3. 客土

(第16表-4)

項目 区分	面積 (ha)		土壌統(区)名	減水深(mm/日)		作土の厚さ(cm)		10a当たり客土量(m ³)	土壌の性質		備考
	事業名	計		現況平均	計画平均	現況平均	計画平均		受益地(%)	採土地(客土材料)(%)	
計											

4. 農地保全

(1) 防災林

(第16表-5-1)

項目 区分	最大風速 (m/s)	幅 (m)	間隔 (m)	備考
計				

(2) 排水工

(第16表-5-2)

項目 名称	基準雨量 (mm/日)	土性	流出率	排水量		備考
				単位排水量 (m ³ /s/ha)	全排水量 (m ³ /s)	
計						

(3) 侵食(崩壊)防止工

(第16表-5-3)

項目 施設名	位置	支配面積 (ha)	機能	備考
計				

第 10 節 老朽ため池改修計画

1. 洪水吐改修計画

(1) 計画基準雨量

計 画 降 雨	観 測 機 関 名	下関地方気象台 (1946年～2023年)
	計 画 基 準 雨 量	200年確率時間雨量 87.7 mm/hr 既往最大雨量 77.4 mm/hr (1953年6月28日)
	計 画 根 拠	洪水到達時間内の平均降雨強度を比較し、200年確率雨量を計画基準雨量とする。 $\text{降雨強度} = \frac{791.5}{\sqrt{43.1+1.28}} = 100.89 \text{ mm/hr}$

(2) 計画洪水量

集 水 面 積	直 接	26.3 ha	合 計	26.3 ha
	間 接	- ha		
計 画 洪 水 量	計 算 式	$Q=1/3.6 \times f \times r \times A$		
	流 出 率	0.776 (直接流域)		
	計 画 洪 水 量	6.866 m ³ /s		
	貯留効果を考慮	3.934 m ³ /s		

2. 堤体補強計画

漏水防止工	漏水調査の結果、堤体下流で漏水が確認され、堤体本体からと推定されるため、前刃金土工法で遮水する。
地盤改良工	堤体を安定させるため、堤体下流の基礎地盤に存在する軟弱地盤を中層混合処理工により改良する。
法面保護工	堤体上流法面は、波浪による浸食を防ぐため、波受工を施工する。

3. 取水施設改修計画

取水施設は、斜樋管（塩ビ）φ250、φ500 取水孔φ150×4孔とする。

底樋は、底樋管φ800に改修し、土砂吐ゲートを設ける。

緊急放流工は、単独孔φ450と取水施設（φ150×4孔）を併用して緊急放流する。

第 5 章 主要工事計画

第 1 節 用水施設

1. 貯水池

(第 17 表-1)

名称				位置						
	形式	流域面積 (km ²)		堤高 (m)	堤長 (m)	堤体積 (千m ³)	基礎地盤地質	貯水量 (千m ³)		備考
直接		間接	総貯水量					有効貯水量		
堤体										
洪水吐	形式	洪水量 (m ³ /s)	備考	取水施設	形式	取水量 (m ³ /s)	放流施設	形式	放流量 (m ³ /s)	備考

2. 頭首工

(第 17 表-2)

名称				位置					備考
	型式	堤高 (m)	堤長 (m)		取水水位 (m)	取水量 (m ³ /s)	付帯施設		
固定部			可動部	計					

3. 揚水機

(第17表-3)

項目 名称	位置	揚水量 (m ³ /s)	揚程 (m)		揚水機			原動機			備考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	動力 ()	台数 (台)	

4. 用水路

(第17表-4)

項目 水路名	かんがい面積 (ha)		通水量 (m ³ /s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備考
	事業名			開きよ	トンネル その他	計				
		計								
計										

5. その他かんがい施設

該当なし

第 2 節 排水施設

1. 排水水門

(第 18 表 - 1)

項目 名称	位置	型式	構造	内水位 (m)	外水位 (m)	排水量 (m ³ /s)	備考	
							備	考
計								

2. 排水機

(第 18 表 - 2)

項目 名称	位置	排水量 (m ³ /s)	揚程 (m)		排水機			原動機			備考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	動力 ()	台数 (台)	
計											

3. 排水路

(第18表-3)

項目 水路名	受益面積 (ha)		排水量 (m ³ /s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備考
	事業名			開きよ	トンネル その他	計				
		計								
計										

4. その他排水施設

該当なし

第3節 道路及び索道

1. 道路

(1) 道路の総括表

(第19表-1)

項目 名称	路線名	幅(有効)(m) × 延長(km)	構造	付帯構造物			最急 こう配 (%)	同左の 延長 (m)	最小曲線 半径 (m)	備考
				名称	構造	構造 (箇所)				
計										

(2) 道路主要構造物

(第19表-2)

項目 路線名	名稱	規模 構造	延長 (m)	箇所数 (箇所)	備考

2. 索道

(第19表-3)

項目 名稱	延長 (m)	高低差 (m)	能力 (t/hr)	原動機		備考
				型式	動力 ()	

第 4 節 農用地造成

1. 農用地造成

(1) 抜 根

(第 20 表 - 1)

項目 区分	樹 種	樹 径 (m)	ha 当たり本数 (本/ha)	面 積 (ha)	工 法	備 考
計						

(2) 除 礫

(第 20 表 - 2)

項目 区分	対 象 土 層 の 厚 さ (m)	ha 当たり標準除礫量 (m ³ /ha)	面 積 (ha)	工 法	備 考
計					

(3) 開墾作業

(第20表-3)

項目		面積 (ha)	工 法	備 考
区分	造成工法			
地 目				
計				

(4) 地目変換

(第20表-4)

項目		面積 (ha)	工 法	備 考
区分				
計				

(5) 末端用水路等

(第20表-5)

区 分	項 目	数 量	規 模	構 造	備 考
	計				

(6) 末端排水路等

区 分	項 目	数 量	規 模	構 造	備 考
	計				

2. 土壌改良

(第20表-7)

区 分	項 目	面 積 (ha)	石 灰 量 (t)	りん酸質資材量 (t)	有機質資材量 (t)	備 考
	計					

第 5 節 洪水調節施設

1. 貯水池

該 当 な し

2. 頭首工及び導水路

(1) 頭首工

(第 2 1 表 - 2)

名 称	集水面積 (km ²)		位 置		計 画 洪 水 位 (m)		付 帯 施 設 備	備 考
			堤 長 (m)					
形 式	集水面積 (km ²)	堤 高 (m)	固 定 部	可 動 部	計	計 画 洪 水 位 (m)	付 帯 施 設 備	備 考

(2) 導水路

(第 2 1 表 - 3)

項 目 水路名	通 水 量 (m ³ /s)	延 長 (m)			構 造	勾 配	備 考
		トンネル	そ の 他	計			

第 6 節 干拓施設

1. 堤 防

(第 2 2 表 - 1)

項目 水路名	形 式	延 長 (m)	構 造				現 地 盤 標 高 (m)		備 考
			堤頂標高 (m)	盛 土 幅 (m)	盛土標高 及び舗装	上流斜面	下流斜面	平 均	

2. 潮止め

(第 2 2 表 - 2)

項目 名 称	工 法	幅 員 (m)	敷 高 標 高 (m)	潮止め堤標高 (m)	最大流速 (m/s)	床固め構造	備 考

3. 付属施設

該 当 な し

4. 埋 立

(第 2 2 表 - 3)

項目 区 分	面 積 (ha)	埋 立 標 高 (m)	埋 立 土 量 (m ³)	施 工 方 法	備 考

第 7 節 農用地整備施設

1. 区画整理

(1) 区画整理

(第 2 3 表 - 1)

工 区 名	面 積 (ha)	整 地 工		表 土 扱 い		備 考
		準 備 区 間	土 量 (m ³)	面 積 (ha)	土 量 (m ³)	

(2) 末端用水路等

(第 2 3 表 - 2)

区 分	項 目	数 量	規 模	構 造	備 考

(3) 末端排水路等

(第 2 3 表 - 3)

区 分	項 目	数 量	規 模	構 造	備 考

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

(第23表-4-1)

項目 区分	面積 (ha)			集水渠				急水渠					集水渠出口以下の排水施設			備考	
	事業名		計	勾配	管種	管径 (mm)	延長 (m/ha)	勾配	管種	管径 (mm)	深さ (m)	間隔 (m)	延長 (m/ha)	名称	構造		数量 (m/ha)
計																	

(2) 心土破碎

(第23表-4-2)

項目 区分	対象土層の厚さ (cm)	ha当たり標準除礫量 (m ³ /ha)	面積 (ha)	工法	備考
計					

3. 客土

(第23表-5)

項目 区分	面積 (ha)		客土土量 (m^3)	土取場土量 (m^3)	運搬距離 (km)	運搬方法	備考
	事業名						
		計					
計							

4. 除礫

(第23表-6)

項目 区分	対象土層の厚さ (cm)	haあたり標準除礫量 (m^3/ha)	面積 (ha)	工法	備考
計					

5. 農地保全

(1) 防風林

(第23表-7)

項目 区分	幅 (m)	延長 (m)	面積 (ha)	樹種	植栽本数 (本)	備考
計						

(2) 排水路

(第23表-8)

項目 区分	延長 (m)	流量 (m ³ /s)	構造	備考
計				

(3) 侵食防止工

(第23表-9)

項目 区分	構造	数量	備考
計			

第 8 節 老朽ため池改修施設

1. 貯水池

(第 2 4 表)

名 称	野中上池			位 置	福岡県遠賀郡遠賀町大字別府地内					
	形 式	流域面積 (km ²)			堤 高 (m)	堤 長 (m)	堤 体 積 (千m ³)	基礎地盤 地 質	貯 水 量 (千m ³)	
直 接		間 接	総貯水量	有効貯水量						
堤 体	前刃金	0.263	—	7.70	107.0	17.1	強風化帯 (土砂)	73.0	73.0	
	形式	洪水量 (m ³ /s)	備 考	取水施設	形式	取水量 (m ³ /s)	放流施設	形式	放流量 (m ³ /s)	備 考
洪 水 吐	正面越流型	3.934			斜樋塩ビ管 φ 250 φ 500	0.022		推進管 φ 800	0.875	仮排水流量

2. 堤体補強施設

(1) 漏水防止工

漏水調査の結果、堤体下流で漏水が確認され、堤体本体からと推定されるため、前刃金土工法を施す。

(2) 地盤改良工

堤体を安定させるため、堤体下流の基礎地盤に存在する軟弱地盤を中層混合処理工により改良する。

(1) 法面保護工

堤体上流法面は、波浪による浸食を防ぐため、風波高まで波受工を施工する。

第 6 章 付帯工事計画

該 当 な し

第 7 章 工事の着手及び完了の予定時期

1. 工事の着手及び完了の予定

着 手 令和 8 年度
完 了 令和 12 年度

2. 工 程 表

(単位：千円)

	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度	合 計
堤 体 工	0	0	79,000	126,000	2,400	207,400
法 面 保 護 工	0	0	0	0	35,600	35,600
取 水 施 設 工	0	0	51,000	0	0	51,000
洪 水 吐 工	0	0	0	23,000	0	23,000
仮 設 工	0	18,600	0	0	14,400	33,000
測 量 及 び 試 験 費	21,000	21,400	0	0	18,600	61,000
用 地 及 び 補 償 費	0	2,000	2,000	2,000	2,000	8,000
工 事 雑 費	400	800	2,500	2,900	1,400	8,000
事 務 費	1,000	2,000	6,700	7,600	3,700	21,000
事 業 費	22,400	44,800	141,200	161,500	78,100	448,000
同 上 百 分 率	5.0 %	10.0 %	31.5 %	36.1 %	17.4 %	100 %

第 8 章 環境との調和への配慮

第 1 節 配慮の対象

1 動物

ヌマフツ、ツチフキなどの魚類を対象とする。

2 植物

該当なし

3 その他

該当なし

第 2 節 配慮の考え方

- ・コンクリート工事や地盤改良工事の施工時に汚濁水等が下流水路に流れ込まないように沈砂池を設置する。
- ・ため池の落水時には魚類（外来種は対象外）を近隣の梅ヶ鼻ため池に移動させる。

第 9 章 換地計画の概要

第 1 節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

該 当 な し

第 2 節 換地区の設定

1. 換地区の名称, 所在, 面積

(第 2 5 表 - 1)

換 地 区 名	換 地 区 の 所 在	面 積 (ha)

2. 換地区を設定する理由

該 当 な し

第 3 節 換地計画樹立の基本方針

1. 従前の土地の面積の基準

(第 2 5 表 - 2)

換 地 区 名	地 積 の 基 準

3. 農用地集団化の方針

(第25表-4)

区分 換地区名	地帯別, グループ別団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	1戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い

4. 非農用地の換地方法

(第25表-5)

区分 換地区名	用途	非農用地区の位置の概略	面積 (m ²)	換地の手法	換地取得予定者	その他

第 4 節 土地の評価及び清算の方法

1. 評価の方法

該 当 な し

2. 清算の方法

該 当 な し

第 5 節 換地計画樹立の年度計画

(第 2 5 表 - 6)

区 分 換地区名	一時利用地の指定予定年度	換地計画の決定予定年度	換地処分予定年度	備 考

第 6 節 換地処分の時期に関する特則

該 当 な し

第 10 章 事業費の総額及び内訳

1. 総括表

事 項	事業費	事業内容	備考																						
	百万円																								
工 事 費	350.0	堤体工、洪水吐工、取水施設工、仮設工	負担割合 (単位%) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">国</th> <th rowspan="2">県</th> <th colspan="2">地 元</th> </tr> <tr> <th>市町村</th> <th>農家</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>55</td> <td>30</td> <td>15</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>工事雑費</td> <td>0</td> <td>100</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務費</td> <td>0</td> <td>100</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>		国	県	地 元		市町村	農家	事業費	55	30	15	0	工事雑費	0	100	0	0	事務費	0	100	0	0
	国	県					地 元																		
				市町村	農家																				
事業費	55	30		15	0																				
工事雑費	0	100		0	0																				
事務費	0	100		0	0																				
測 量 及 び 試 験 費	61.0	測量、地質調査、実施設計、物件調査																							
用 地 及 び 補 償 費	8.0	借地																							
工 事 雑 費	8.0																								
計 (事業費)	427.0																								
地 方 事 務 費	21.0	事業費×5.0%以内																							
合 計	448.0																								

第11章 効 用

1. 総括

(1) 総費用総便益比及び所得償還率の総括

(第11表-1)

区分	算定式	数値	備考
総費用（現在価値化）	③=①+②	330,922 千円	
当該事業による費用	①	355,196 千円	
その他費用（関連事業+資産科価額+再整備費）	②	△ 24,274 千円	
年償還額	④	－ 千円/年	
うち機能向上分	④'	－ 千円/年	
年総効果（便益額）	⑤	38,844 千円/年	
現況年農業所得額	⑥	882 千円/年	
年増加農業所得額	⑦	90 千円/年	
評価期間（当該事業の工事期間+40年）		45 年	
割引率		0.04	
総便益額（現在価値化）	⑧	797,878 千円	
総費用総便益比	⑨=⑧÷③	2.41	≧ 1.0
総所得償還率	⑩=④÷⑥×100	－	≦ 20%
増加所得償還率	⑪=④'÷⑦×100	－ %	

(2) 総費用の総括

(単位：千円) (第11表-2)

区分	施設名 (又は工種)	①事業着工時点 の資産価額	②当該事業費	③関連事業費	④評価期間における 再整備費	⑤評価期間終了時点の資 産価額	総費用⑥=①+②+③+ ④-⑤
野 中 上 池	堤体工	0	271,312	0	0	24,274	247,038
	取水施設工	0	58,276	0	10,192	10,192	58,276
	洪水吐工	0	25,608	0	4,602	4,602	25,608
	計	0	355,196	0	14,794	39,068	330,922

(3) 年総効果額及び年増加所得額及び現況年総農業所得額

(単位：千円) (第11表-3)

効果項目	区分	年総効果(便益)額	年増加農業所得額		現況年総農業所得額	備考
				うち機能向上分		
作物生産効果					882	
災害防止効果		38,836				
維持管理費節減効果		8	90	90		
合計		38,844	90	90	882	

第 12 章 関連する事業

(第 28 表)

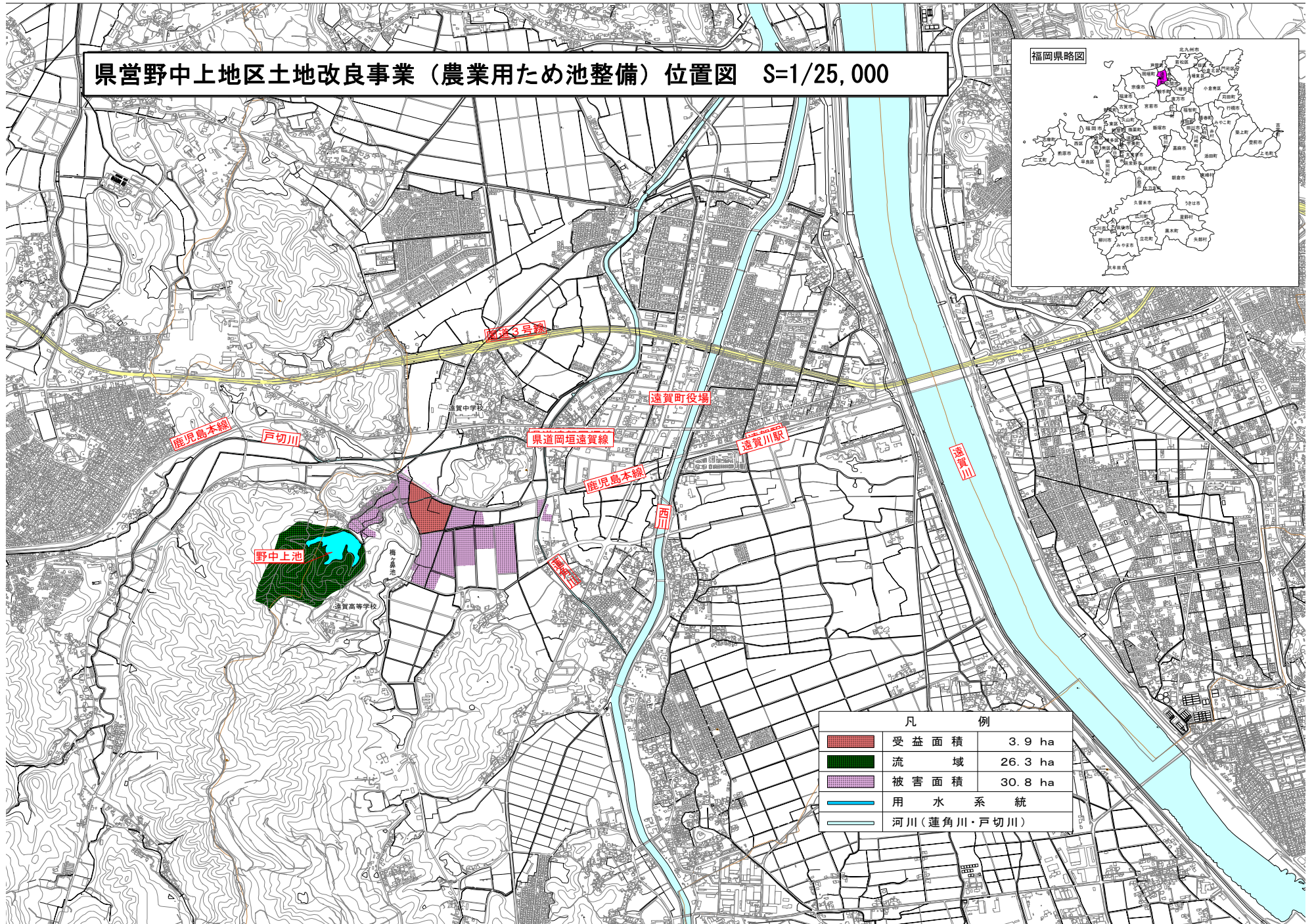
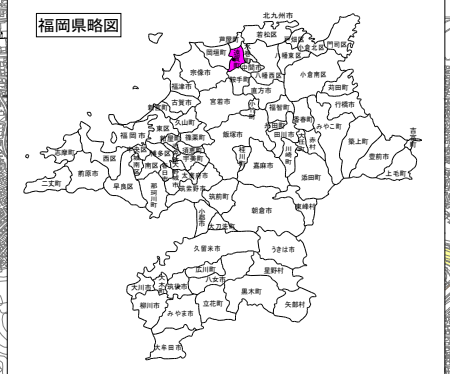
区 分	事 業 名	事 業 主 体	受 益 面 積 (ha)	事 業 内 容

第 13 章 関係図面

- 1. 位置図
- 2. 計画概要図

} 別紙のとおり

県営野中上地区土地改良事業（農業用ため池整備）位置図 S=1/25,000

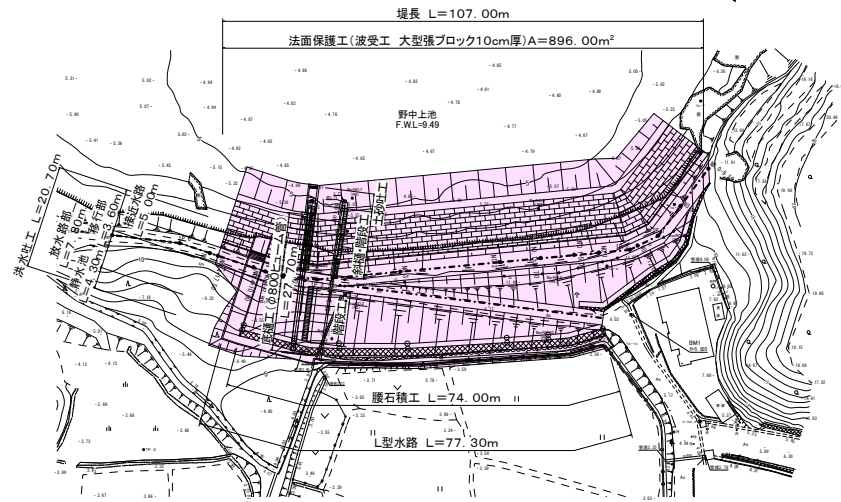


凡 例		
	受益面積	3.9 ha
	流域	26.3 ha
	被害面積	30.8 ha
	用水系統	
	河川(蓮角川・戸切川)	

地区概要図(1)

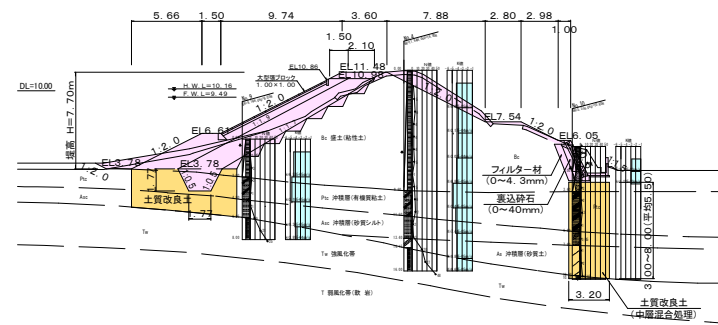
計画平面図

S=1:500



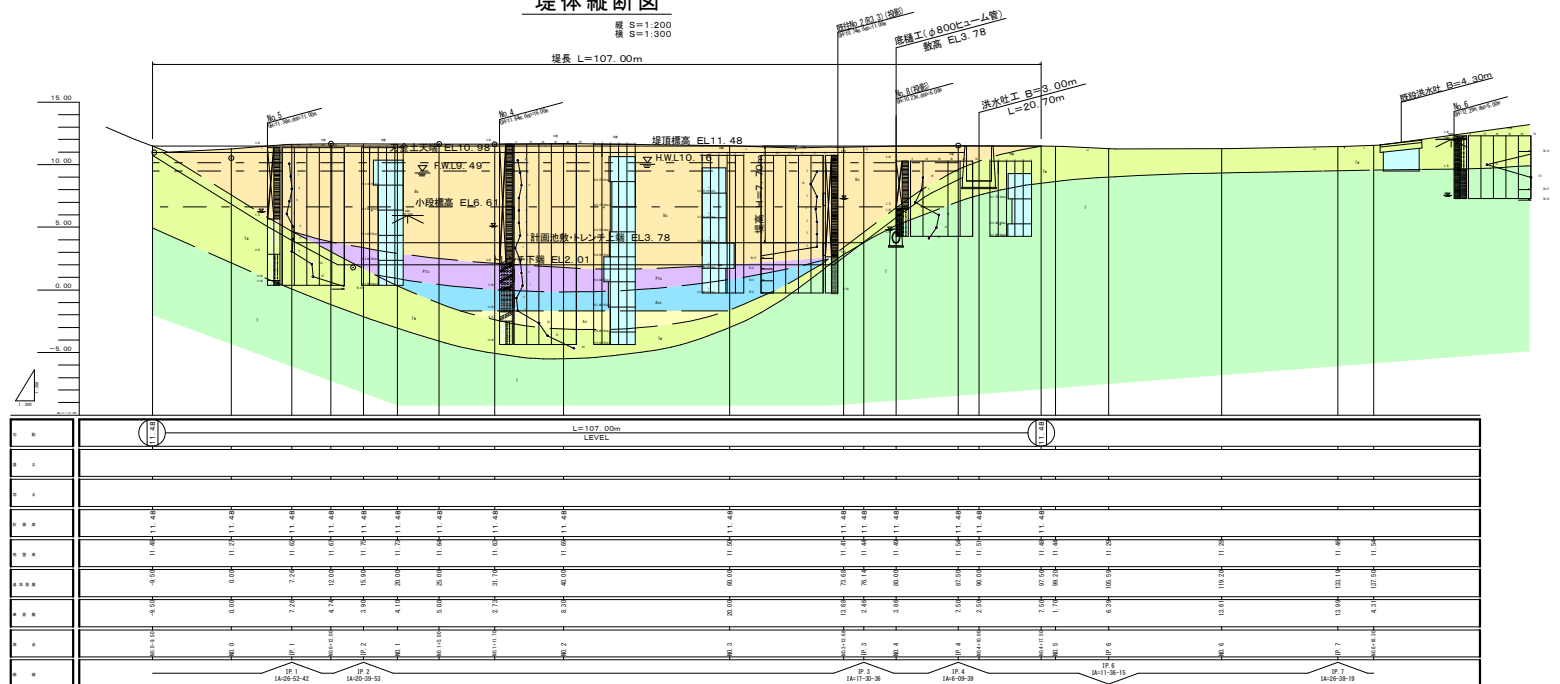
標準断面図

S=1:100



堤体縦断面図

縦 S=1:200
横 S=1:300



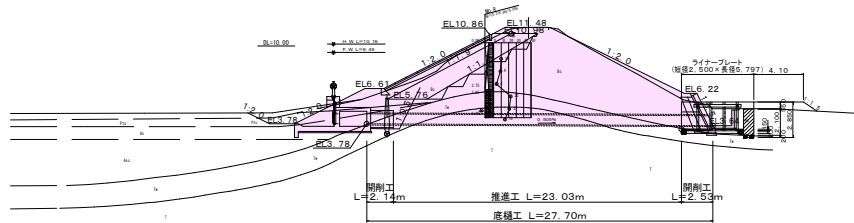
地質時代	地層名	土(地)質	記号	備考	
新	埋	埋	埋	0-14 (2)	既成土(埋)
				0-1 (0)	埋
旧	沖積層	沖積層	沖積層	0-7 (0)	埋
				0-3 (0)	埋
旧	沖積層	沖積層	沖積層	1-2 (1)	埋
				6-7 (0)	埋
旧	沖積層	沖積層	沖積層	10-30 (18)	埋
				10-30 (18)	埋

*1 補正102: 換算層で表示した。換算層厚100(計算値)/実入層(約)×30m
 *2 換算層厚: 平均値(標準偏差: 2)

地区概要図(2)

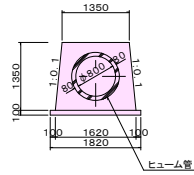
底樋工

S=1:200



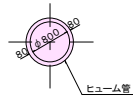
開削工断面図

S=1:50



推進工断面図

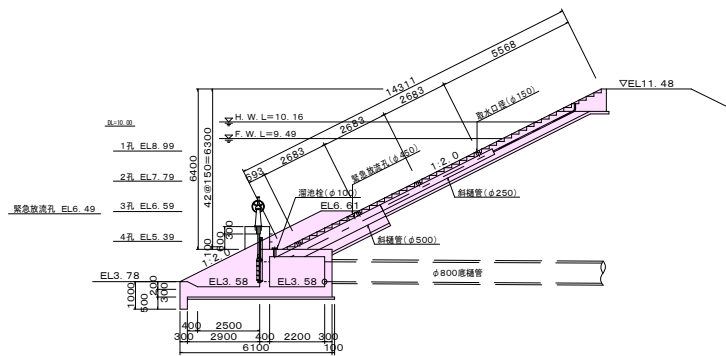
S=1:50



取水施設

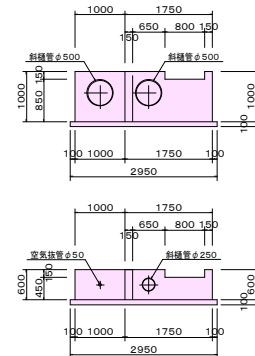
縦断面図

S=1:100



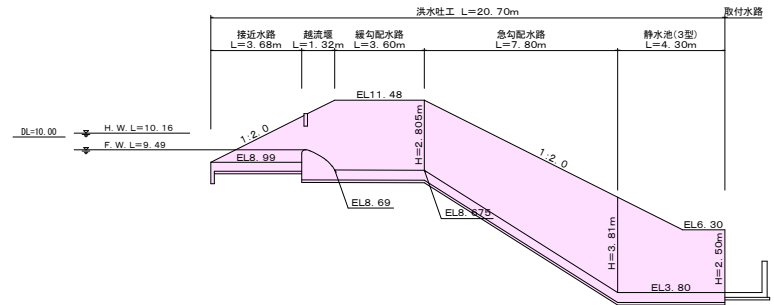
断面図

S=1:50



洪水吐工

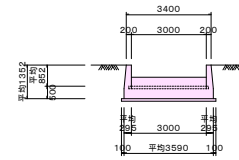
S=1:100



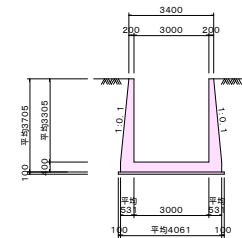
標準断面図

S=1:100

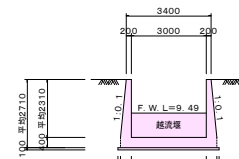
接近水路



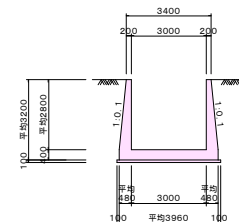
急勾配水路



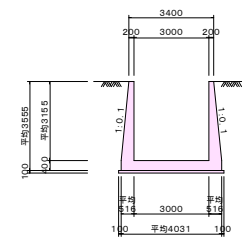
越流堰部



緩勾配水路

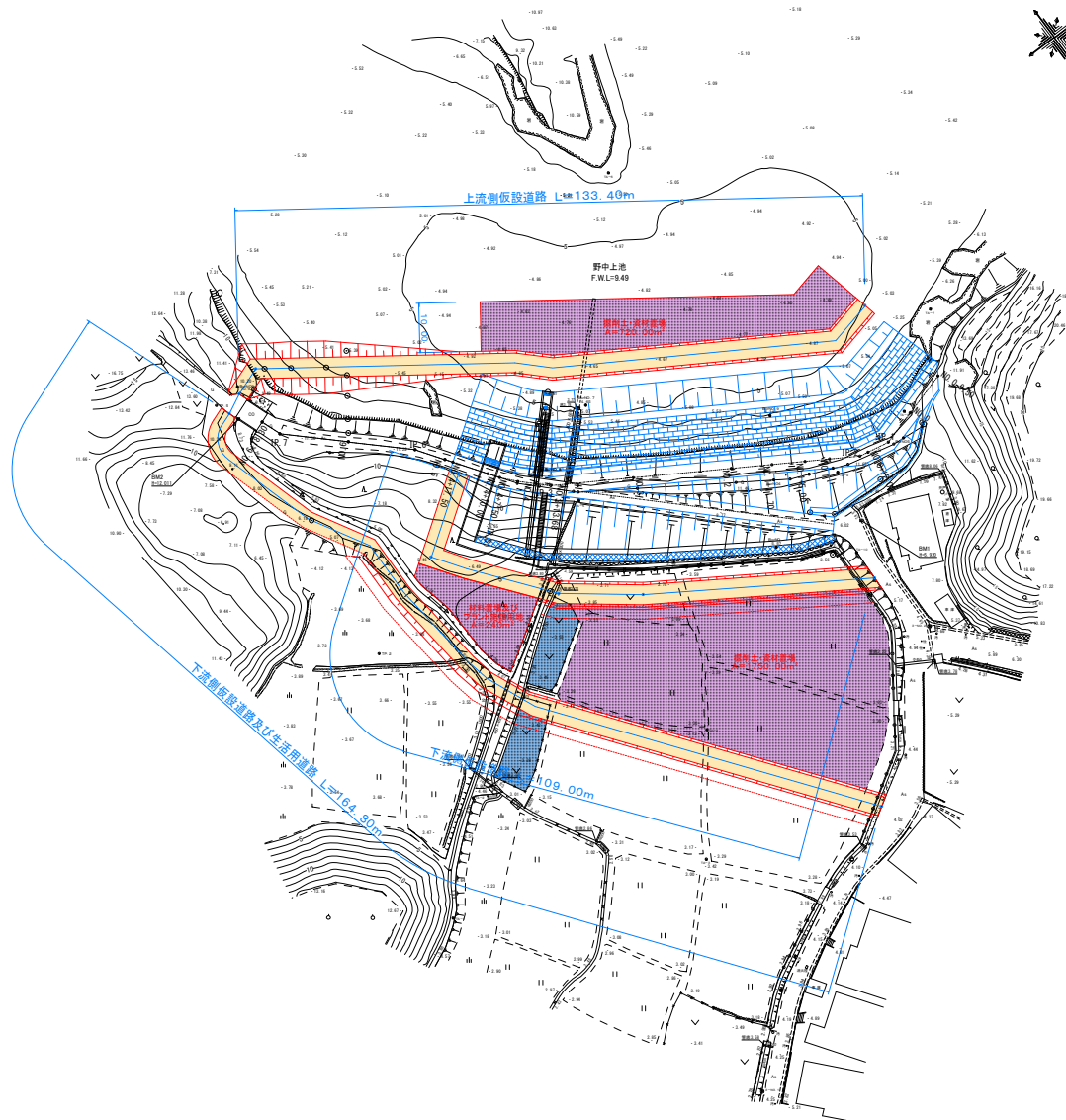


静水池



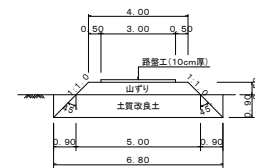
地区概要図(3)

工事用道路計画平面図(上・下流側) S=1:500



上流側標準断面図

S=1:100



下流側標準断面図

S=1:100

